

ぐんまこどもの国児童会館

ニコっと通信

nicotto tsu-sin!



ニコっとちゃん

2006. 1 .15

第12号

発行／
ぐんまこどもの国児童会館



あけましておめでとうございます。

今年も楽しい催し物をたくさん用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

ぐんまこどもの国児童会館 スタッフ一同

スペースシアター

プラネタリウム春番組

「ジュラシック プラネット ～恐竜のすむ星～」

上映期間：2月25日(土)～6月25日(日)

平日 14:30～

土・日・祝日 13:00～、15:30～

博士と少女と恐竜ロボットは、恐竜の住む惑星探しの旅に出かけます。その成果は?!
「宇宙誕生から惑星が出来るまで」と「地球に生命が誕生し進化をとげるまで」を分かりやすく解説します。



マタニティ・子育て支援コンサート

専門医のお話と生演奏の2部構成です

・小児科医師の講演「うまれた後のお話」

講師：小野田 喜美代（貝沢中央病院（高崎市）副院長）

・ピアノ演奏と語り「音楽物語『月夜の晩』」

演奏：NPO法人ミュージック・フォー・チルドレン

◆開催日 2月5日(日) ◆時間 15:30～16:30

◆会場 スペースシアター

◆対象 妊娠中の方（安定期で出産予定1ヶ月前までの人）、乳幼児を育児中の方 ※配偶者などの同伴可

◆定員 150名(先着順) ◆観覧料 無料

◆事前申込 平成18年1月6日～

※会場内にお子さんは入れません。保護者から離れられる子どもを対象に 託児を行います。詳細はお問い合わせください。

児童健全育成講演会

「未来につながる食歴づくり～今、子どもに大切な食育とは～」



NHK教育テレビ「ひとりできるもん」の立ち上げに携わるなど、幼児の食教育において広く活動を行っている坂本廣子氏をお迎えして「食育」に関する講演会を行います。

◆開催日 2月1日(水)
◆時間 13:30～15:40(受付13:00～)
◆会場 多目的ホール
◆対象 児童健全育成関係者及び一般
◆定員 300名(先着順)
◆申し込み お電話か直接来館してお申し込みください

※託児を行います(先着20名)。詳細はお問い合わせください。

休館日

1月… 10日(火)・16日(月)・23日(月)・30日(月)

2月… 6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)

3月… 6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)



ぐんまこどもの国児童会館

〒373-0054 群馬県太田市長手町480

TEL.0276(25)0055 FAX.0276(25)0059

URL <http://www.sunfield.ne.jp/~kodomo01/>

ぐんまこどもの国児童会館食育月間 ～楽しい食事は元気のもと～

平成18年2月1日(水)～28日(水)

ぐんまこどもの国児童会館では、大人も子どもと一緒に、楽しく遊びながら食育を体験してもらおうと、2月を食育月間として、食育に関する様々な催しを企画しました。ぜひたくさんの方に参加していただきたいと思います。

＜食で育てる力＞

食育とは、生きる上での基本であり、知育、徳育、体育の基礎となるもので、様々な経験を通じて「食」に関する知識と、「食」を選択する力を身につけ、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。このためには、次の「食で育てる力」が身に付いていることが大切です。

- ① 食べ物を選ぶ力
- ② 味が分かる力
- ③ 料理ができる力
- ④ 自分の体を大切にできる力
- ⑤ 食べ物の命を感じる力

＜日本人の食の問題＞

今、このように多く食育が採り上げられる理由は、私たちにとって欠かせない「食」をめぐる、様々な社会問題が発生しているからです。つまり、

- ① 「食」を大切にする心の欠如
- ② 栄養バランスの偏った食事や不規則な食事の増加
- ③ 肥満や生活習慣病(糖尿病など)の増加
- ④ 過度の痩身志向
- ⑤ 食の安全上の問題の発生
- ⑥ 食の海外への依存
- ⑦ 伝統ある食文化への喪失感

などです。

この問題を改善するために食育基本法が平成17年6月10日に成立しました。

食育基本法では、様々な機関での食育の推進などが謳われていますが、この中に「家庭における食育の推進」という項目があります。大人になっても病気に脅かされない健康な体で生活でき、また様々な食の問題を改善する知恵を、幼ないうちから家庭でも養おうということです。

健全な生活の基本は「食」からです。ちょっとした風邪をひいてしまっても、日頃の健康の大切さが分かりますね。ぜひ皆さんの御家庭でも、食育を実践して、家族みんなが楽しく過ごせるよう心がけてみてください。

ぐんまこどもの国児童会館

食育に関するもよおしもの

※詳細は児童館まで

期 間	もよおしもの	申し込み
1/29(日) 10:30から 2/4(土) 9:00から	食育探検隊「親子でクッキング」 ・29(日)食育クイズなど ・4(土)そば打ち体験 2日で1コース	12/1～ ★小1以上と保護者
2/1(水) 13:30から	児童健全育成講演会「未来につながる食歴づくり～今、子どもに必要な食育とは～」 講師：坂本廣子先生	12/20～ ★一般
2/1(水) 9:30から ～28(火)	クラフトルーム自由利用 「おべんとうプレートをつくろう!」 ・工作しながら栄養の基礎知識を身につける	自由参加
2/5(日) 10:00から	造形教室 「親子でくだものかごをつくろう」 ・竹や竹ひごをつかったくだものかご作り	1/4～ ★小学生と保護者
2/11(土) 11:00から 2/26(日) 13:30から 15:00から	楽しい食事は元気のもと ～なるほど発見!たべものあそび～ ・ペープサート、手遊びなど	当日受付 ★幼児から
2/12(日) 11:30から 13:30から 14:30から	楽しい食事は元気のもと スペシャルバージョン ～なるほど発見!たべものあそび～ ・ゆうまちゃん劇場やクイズなど	当日受付 ★幼児から
2/19(日) 13:30から 15:00から	I 食う! サプリ～食べ物クイズでスッカリ!～ クイズやゲームで楽しく学ぶ	当日受付 ★幼児～中学生
2/24(金) 10:30から	子育てセミナー「子どもの食事と健康」 講師：佐藤恵子先生	1/24～ ★子育て中の方、他
2/25(土) 10:30から 14:00から	楽しい食生活～栄養満点!お野菜ケーキ～ ・牛乳パックでつくる蒸しケーキ	1/21～ ★小3～中学生

群馬県での取り組み



群馬県のキャラクターゆうまちゃんが主人公の冒険物語を通して、親子で一緒に楽しみながら、食に関心を持ち、食育の実践につなげることができます。

親子で学ぶ食育ブック
「ゆうま三兄弟のゆうこ姫を救え!」
¥500(税込み)

栄養や食習慣、マナーなど食の持つ様々な内容を盛り込んだカルタです。自分で組み立て、繰り返し遊ぶことで、自然と食について学ぶことができます。

遊びながら食を学ぶ
すくすくカルタ 組み立てキット
¥380(税込み)



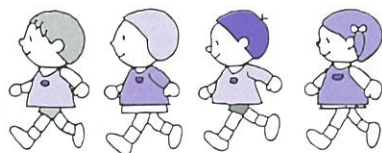
● お問い合わせ ●

群馬県食品安全会議事務局 食品安全課

TEL 027-226-2423

FAX 027-221-3292

「叱る・ほめる」こと(2)



一発達段階に応じた ほめ方・叱り方一

今回は、「叱る・ほめる」ことの原因・前提条件・本質・方法などについて書きました。今回は、そのようなことをふまえて、発達段階に応じたほめ方・叱り方についてまとめてみました。

幼児期前期(1歳～3歳くらいまで)

この時期の子どもは、一人で歩行ができるようになり、自我が芽生えることから、自分の意志を出し始めます。そのため、できもしないのに「するー」と言い張り、すべて自分のものにしたがります。その上、なぜいけないのか説明してもよくわからず、聞き分けありません。そこで、

- ①ほめることを多くし、励ましたり促したり様子をみながら待つなどして、望ましい方向に導くことが大切です。
- ②叱らなくて済むように、遊びや食事の前に数物を用意したり、外出時は余裕をもって支度をしたりします。
- ③子どもは予知能力がないので、危険な行為はその場ですぐに端的に叱ることが大切です。

幼児期後期(3歳～6歳くらいまで)

この頃には、大抵のことは大人の手を借りなくても自分で行えるようになります。そのため、好奇心に満ち積極的に探索し・挑戦します。また、大人の価値観や善悪の判断基準を読み取り、統制に合わせようとします。それが少しずつ内在化して子どもなりの判断や統制を身につけます。

- ①その行為が、なぜ良いのか・悪いのか、結果論でなく、動機論に基づいた真の道德判断ができる説明が大切です。
- ②この時期は、賞賛・叱責・注意などに敏感です。大人は一貫した態度、両親は一致した基準が重要です。

小学校低学年

この頃は、知的・身体的能力が少しずつ大人に近づきます。一方、他人の中で自分の位置が分かり始め、他者と比較したり、自己評価したりすることも可能になります。

そのため、課題が解決できれば有能感を持ち自信をつけますが、逆の場合は劣等感を持ち自信を失います。そこで、

- ①無理な課題を与えないこと。結果だけでなく努力の過程も励まし・賞賛する配慮が必要です。
- ②「なにが」「なぜ」いけないのか、具体的・的確に指摘し、人間性まで否定する叱り方をしないこと。ほめる場合も同様で、

「なにを」「なぜ」ほめられたかがわかることによって、工夫・努力が具体的・意欲的になります。

- ③叱るときに、兄弟や他の子どもを引き合いに出すと、自尊心を傷つけるので、こういう叱り方はしないことです。

小学校高学年／中学生

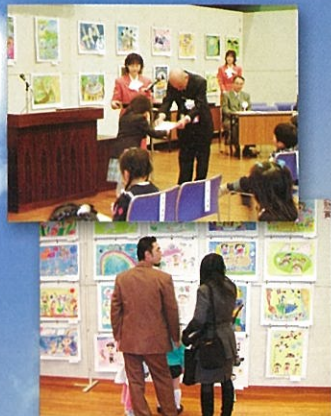
思春期の子どもは、独立欲求が強く、独りよがりの考えを押し通そうと、心理的離乳を試みる一方で、親や教師から見守られ、支えられることも求めています。そのため、大人は真摯に誠実に向き合っており、心から叱ったりほめたりすることによって、子どもの自立を果たすことが大切です。

- ①子どものアイデンティティを否定するような叱り方をすると、「どうせオレは、……」と自分で自分をマイナスの自己定義をし、その後の反省や努力を放棄し、場合によっては、わざとマイナスの方向に自分を追いやめることもあるので留意が必要です。
- ②自分なりの理解・納得がしたい時期です。諭すべき内容を説明・納得させ、毅然と道を示し、範を垂れることが大切です。
- ③親も人間です。冷静さを失い、いらだちをあらわに叱ってしまうこともあります。そんなとき子どもは、叱られたことより親から突き放された寂しさや孤独の痛みを強く感じ、「自分なんかいないほうがいい」と思ったりもします。そこで、「悪かったね」と互いのわだかまりを解く働きかけも必要です。
- ④陰でやっていた自主練で結果を出し、監督から「おまえはよく練習したからな」などとほめられると、自分を支える自己確信となって、アイデンティティが確立します。
- ⑤「君は、他の人になに良いものを持っているね」などと、人から自分の良い点をほめられることは、その人の人生の中でひっそりと、しかし長い間にわたって個人を支えたり、生き方の指針となったりしていることがあります。

《参考文献》

- ・池田裕恵「発達段階に合わせたほめ方・叱り方ー乳幼児期／小学校低学年」
- ・小澤理恵子「向上ー小学校高学年／中学生」
(『児童心理』2002年12月臨時増刊所収)

ぐんまこどもの夢大賞 第14回



「ぐんまこどもの夢大賞」は、児童文化の振興を図る目的で、群馬県と当児童会館の運営主体である財団法人群馬県児童健全育成事業団の共催で毎年行っています。今年は18歳未満を対象とした絵画と、小学生以上18歳未満を対象とした童話の2種目を夏休みに合わせて募集を行い、絵画4,106点、童話346点というたいへん多くの皆様から作品を寄せていただきました。

審査の結果、絵画は最優秀賞3点、金賞15点、銀賞23点、銅賞37点、奨励賞115点が、童話は最優秀賞1点、金賞3点、銀賞6点、銅賞6点、奨励賞11点が入賞しました。

ここでは、最優秀賞を受賞したみなさんの作品とインタビューを紹介します。

インタビュー内容

- ①受賞を知ったときの気持ちは？ ②制作時間は？ ③どうしてこの作品をかこうと思ったの？
④次は何をかきたい？ ⑤将来の夢は？ ⑥保護者のことば ※その他

絵画



沼田市立沼田北小学校 2年
つちや ゆうじ
土屋 裕二さん
「気もちいい」



- ①学校の先生から聞いてうれしかった。本当によかったと思いました。
②5日間くらい
③海が好きだから。夏は海水浴に行きました。水族館でくじらをみたことがあります。
④今日、賞をもらったばかりなので、今は特にありません。

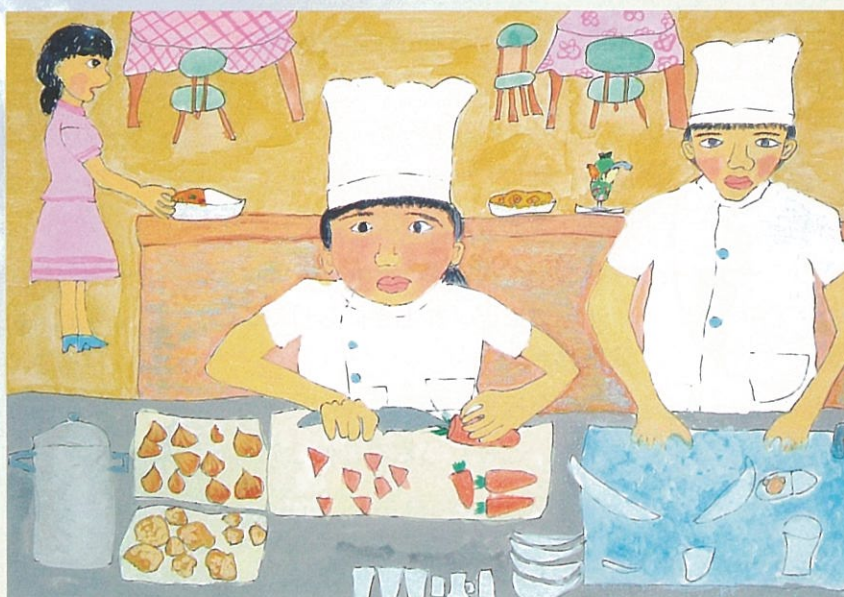
- ⑤今回の絵と同じように、水族館の人になりたい。

- ⑥お兄ちゃんも絵が好きで、その様子を見て、夏休みのあいだかなりの日数をかけてがんばって描いていました。

※お兄ちゃんも今回の夢大賞では奨励賞を受賞しました。おみごと、兄弟受賞です。



高崎市立八幡小学校 3年
つくの りさこ
築野 理沙子さん
「私の夢はシェフ」



- ①先生からいわれて、すごくうれしかった!!
- ②1週間くらいかかりました。
- ③お料理が大好きなので。
- ④また、シェフの絵が描きたい。
- ⑤やっぱりシェフになりたい。料理の中では和食が好きなので、和食をつくるシェフがいいな。

⑥本人が一所懸命描いていたので、受賞できて本当によかったです。

※物静かな感じの理沙子さんでしたが、芯はしっかりしていて将来の夢もきちんと語ってくれました。絵の女の子は自分だと照れくさそうに教えてくれました。



太田市立生品小学校 6年
おおさと しん
大里 慎さん
「宇宙へ行きたい」



- ①え？ホント？！と、信じられなかった。
- ②1週間位かかりました。(貼り絵の部分に時間がかかった)
- ③宇宙飛行士の野口聡一さんのニュースを見て。
- ④鳥を描いてみたいです。
- ⑤サッカー選手になりたい。スペインのラウール選手が好きです。
- ⑥いつも宿題などで出される新聞づくりなどで

挿絵を上手に描いていました。

夢大賞では2年生の時に奨励賞をとって以来、3年生は銀賞、4年生は銅賞、5年生は奨励賞を受賞してきました。そして6年生の今年は最優秀賞。おめでとう！がんばったね！

※表彰式のため、サッカーの試合を抜け出してきたそうです。式が終わったら試合へ直行。サッカーでも大活躍できそうですね。

童話



桐生市立西小学校 3年
おざわ さよこ
小澤 瑤依子さん

- ①すごくうれしかった。
- ②3日間。思いついたら書いた。
- ③願い事がいっぱいあってそれをかなえるために。(ちなみに願い事って?) 水泳やピアノが上手になりたい。
- ④冒険もの
- ⑤宇宙飛行士。宇宙が好きだから。
- ⑥小さいときから絵本が好きで、いっば

い読んでいるんなあとと思っていました。ひとりっ子なのでずーっと読んでいます。

※本を読むのが大好きで、伝記などの本をお父さんに買ってもらうそうです。将来宇宙へいったら、ぜひすてきな冒険小説を書いてください。

「ねがいごとしゃぼん玉」

「うーん、いい風。」

高く青い空に、白い入道雲。気温もぐんぐん上がってきた。夏休みのプールからの帰り道、みよちゃんは大きな木のかげでひと休みした。木の葉がゆれ気もちのいい風がふきこんできた。

「あれ」

ふわり。しゃぼん玉がひとつとんでいった気がした。でも、近くにはだれもいない。

またふわり。やっぱり、しゃぼん玉だった。でも、このしゃぼん玉どこかへんだ。

よく見ると「ね」という文字が見えた。

びっくりしてまわりを見ると、木の根元にしゃぼんえきとストローがあった。

「だれかのわすれ物かな。」

ちょっとためらってから、ゆうきを出してふいてみた。

「が」「い」「ご」「と」「し」「や」

「ほ」「ん」「だ」「ま」。一気にふいたら文字が次々と出てきた。

「ねがいごとしゃぼん玉ってこと？」

しばらくぼーっとしていたみよちゃん。本当かな、大じょうぶかなとまよいながらも「あついから、やっぱりアイスクリームが食べたいな」

と、ねがいごとをしてから、ふいてみた。

「ア」「イ」「ス」「ク」「リ」「ー」「ム」。パチンとしゃぼん玉がはじけたとたん、目の前にアイスクリームがあらわれた。

「食べちゃってもいいよね。」と自分に言い聞かせながら、つめたくてとってもおいしいアイスクリームを平らげた。しゃぼんえきとストローはバッグにそっとしまって、家に帰ることにした。

「おかえり。あつかったでしょう。アイスクリームで

も食べる？」

お母さんに声をかけられて、みよちゃんはどきっとした。

「ううん、今はいらない。」

お母さんは、めずらしいこともあるもんねえ、とふしぎそうな顔をしていた。みよちゃんは、しゃぼん玉のことを話そうかまよったけれど、なぜか言いそびれてしまった。

しゃぼんえきをつくえにしまって部屋からもどると、お母さんはソファにすわってカタログをめくっていた。のぞきこむと、「新しいバッグがほしいなあ」とひとりごとのように言った。

夜になって、お父さんが帰ってきた。ばんごはんを食べ終わってお父さんは、お酒を飲みながらインターネットで時計のページを見始めた。

「かっこいいねその時計。」とみよちゃんが声をかけると、お父さんはきげんよく「いいだろ、ほしいんだけどね。」と言った。

そういえば、お父さんとお母さんのけっこん記念日ももうすぐだったよね。みよちゃんは、いいことを思いついたのがうれしくて、いつもより大きな声で「おやすみ」と言って、自分の部屋に急いだ。

次の日の朝のお父さんとお母さんのおどろきぶりを見て、みよちゃんは「やったあ」と思った。おたがいがプレゼントを用意していたことにするため、話を合わせるのにくろうしたけれど。

あまりにうまくいったので、みよちゃんはひみつをひとりでないしょにしていられなくなってきた。そうだなっちゃんには話してもいいよね、と思った。

その日の夕方、学校のそばの公園でなっちゃんと会うやくそくをして、しゃぼんえきをもって出かけた。「ちょっと見てほしい物があるんだけど」と、みよちゃんはしゃぼん玉をふいてみせた。ねがいごとしゃぼん玉という文字が出てきた。

「何、ふしぎね。」

なっちゃんはとてもびっくりしていた。みよちゃんは「実はね。」とこれまであったことを全部話した。

みよちゃんはちょっととくいになって「何かほしい物ある？」と、なっちゃんに聞いた。「ありがとう。気もちうれしいけど、わたしはいいよ。」

なっちゃんがよろこんでくれると思ったのにと、みよちゃんはちょっとがっかりした。

なっちゃんは「もしいやな気もちになったらごめんね。ねがいごとはみんなもっているし、それがじつげんしたらうれしいよ。でもなんでも手に入るってよろこんでいいのかな。」と言った。

その時、どこにいたのか同じクラスのいたずらっ子、明夫がかけよってきた。「今聞いてたぜ。かしてみろよ。」としゃぼんえきをよこどりした。

みよちゃんは、「ちょっと、だめだよ。」ととりかえそうとしたけれど、明夫はいきおいよくかけていったのでおいつかない。「おれは、グローブとバット、自転車もちっちゃえから、新しいのがほしい。」と大声をあげてからいきおいよくふき始めた。

目の前にあらわれた野球道具と新品の自転車に、いっしゅんとまどっている様子だった。が、二人がおいかけてきたので、あわててにもつを自転車につむと、明夫はどんどんにげていってしまった。

「どうする？」

大事なしゃぼんえきをとられてこまりはてているみよちゃんに、なっちゃんは声をかけた。

「もちろんかえしてもらいに行く。」

明夫の家は急なさか道を上がった丘の上にある。たしか三人兄弟で一番下の弟のはずだ。お父さんとお母さんでお店をやっているから、家にいるのは明夫だけかもしれない。

あせをかきながら二人でさか道をのぼり切り庭をのぞくと、自転車はなかった。

「急に自転車にのって帰ったら、みんなびっくりするでしょう。きっとどこかにおいているんじゃない。」

なっちゃんの考えに、みよちゃんもうなずき、チャイムを鳴らしてみた。

へんじはない。人もいる様子がなかった。しばらくまちつづけたけれど、もうお母さんたちが心配する時間だ。

あきらめてさか道を下り始めた時、自転車をおして上ってくる明夫のすがたが見えた。

「ちょっと、わたしのしゃぼんえきかえしてよね。」

二人が急ぎ足で近づいてくるのを見た明夫は、「しつこいな」といいながらも、自転車にのりこむと、はんだい方向を向いて、さか道をいきおいよく下り始めた。

「ききーっ」

本当にいっしゅんの出来事だった。大がたトラックがせまって来るのを見て、みよちゃんは「あぶない」と思ったけれど声にならなかった。がしゃーんという大きなぶつかる音がきこえたような気もしたけれど、何かなんだか分からなくなってしまって、立ちすくんでしまった。

ふとわれにかえると、さか道をかけ下っていくなっちゃんの後ろすがたが見え、あわてて後についていった。「大丈夫…」と声をかけようとして、だまってしまった。トラックのわきで明夫がおどろいた表情で立っていたが、のっていた自転車はどこにもなかった。ぶつかったと思っていたけど、明夫がけがをしている様子もないのだ。

トラックのうん転手は「あぶないぞ。とび出すなんて。」とおこっていたけれど、ふしぎな出来事におどろき、明夫にけががないことをたしかめると、あわてるように行ってしまった。

のこされた3人の足もとには、グローブやバットもなく、しゃぼんえきの入れ物と、ストローが落ちていた。入れ物の中は空っぽ。みんな会話もなく、それぞれの家に帰っていった。ごろごろと雷が鳴り出し、今にもた立ちが来そうな空だった。

みよちゃんのはのこり少ない夏休みをすごしながら、あの日のことを時々思い出す。しゃぼんえきもどってきたらとも考えた。あの木かげをのぞきに行ったこともある。

夏休みのさい後の日は、みよちゃんのたん生日だ。お父さんとお母さんはささやかなプレゼントを用意していた。

「バッグもうで時計もうれしかったけど、一番うれしかったのは、みよの気もちだよ。みよの手紙にはやさしい気もちがいっぱいつまっていたよ。」とえがおで話してくれた。

バッグもうで時計もあのさわぎの後、きえてなくなってしまったので、二人にあてた手紙だけがのこっているのだ。みよちゃんは本当のことを話していた。

みよちゃんは、お父さんとお母さんの気もちを聞いて、もやもやしていた気もちがすーっとして、おもいっきりわらった。



第11回群馬県内児童館フェスティバル



ぐんまこどもの国児童会館に、県内の児童館が集まって様々な催し物を行う「群馬県内児童館フェスティバル」も11回目を数えます。今回も楽しい催し満載で、10月8日(土)・9日(日)に行われました。

会館多目的ホールを中心に様々なあそびや工作のコーナーを開催。リサイクルをテーマに各児童館でつくった小物やおもちゃを紹介した「リサイクル工作展」と実際にあそべるコーナーを設けました。3階で行われたネイルアートとフェイスペインティングは女の子も男の子も大喜び。

また、2日間にわたって、児童館の先生方や子ども達がそれぞれの館で練習し披露してくれる劇や演技は、来館した子ども達みんなの目を楽しませてくれました。

さらに、今回は、群馬県スポーツチャンバラ協会による「スポーツチャンバラの体験教室」やあそびの市場実行委員会・群馬大学奥沢研究室のメンバーのサイエンスショー「サルでもわかる科学教室」、保育者ユニット「しゃぼん玉」による「みんなであそんじゃおう!」のコンサートなど、児童館関係者以外の方々の協力で行われた催しもありました。

さて、今回来館してくださった皆さんは、自分の地域の児童館を見つめることが出来ましたか? まだフェスティバルにいらしたことがない方は、今年の開催をお楽しみに。皆さんのご来館をお待ちしております。

お父さんの育児講座 「親子で竹馬作り」開催



昨年11月6日(日)、日頃お仕事を忙しいお父さんと子ども達のふれあいの場として「お父さんさんの育児講座」が行われました。この講座はお父さんはもちろんのこと家族みんなで参加できる講座です。

今回の「親子で竹馬作り」は、当日、天候が悪かったにもかかわらず事前に申し込んだ家族全員が出席してくれて、どの親子も協力しあって一所懸命竹馬を作りました。また指導してくださった先生達が、製作しやすいように竹の太さや節の長さをあらかじめ調整して材料を準備してくれたので、それぞれ参加者の年齢にあわせた竹馬ができあがりました。

作り上がると早速竹馬に乗る練習をしましたが、始めは少しぎこちなかったお父さん達も、昔取った杵柄でしっかり我が子に教える姿が見られました。

親子一緒に作った竹馬の思い出は、きっと子ども達の心にも残ることでしょう。この子ども達が大人になった時、次の子ども達にも竹馬作りを伝えてくれるといいですね。

紹介します

「太田市休泊児童館」

このコーナーは、県内の児童館を紹介します。
楽しい行事や特色ある遊具などをお話していきます。



〒373-0806
太田市龍舞町1985-13
TEL.0276-45-9892

〈開館時間〉9:30~18:15
〈休館日〉12月29日~1月3日



今回は昨年11月5日に開館した、できたてほやほやの「太田市休泊児童館」をご紹介します。太田市では12館目の休泊児童館ですが、敷地内は元の地主さんの代からの大きな樹を残して設計されていて、シンボルツリーのようなムクの巨木がそびえ立ち、子ども達を出迎えてくれます。取材当日は、晩秋だったため、落ち葉がそれは見事でした(先生達はお掃除が大変そうですが...)。

館内は、高い天井の遊戯室や床暖房の入った図書室、日当たりの良い集会室があり、トランポリンや卓球台、大型ブロックやパソコンなどが置いてあります。午前中は、近くの乳幼児連れの親子が、午後は小学生が、憩い、また遊具を使って遊んでいるそうです。

担当の木部先生にお話を伺ったところ、「核家族化が進んでいますが、この児童館は世代を超え、近くのお年寄りも日なたぼっこに寄ってもらって井戸端会議をしたり、3世代が一緒に楽しめる場になってほしいです。3月には、ご近所の方を先生に迎え、庭の畑でジャガイモの種植えをして、みんなで収穫したいですね。」と語ってくれました。

ピカピカの休泊児童館ですが、窓から眺める景色はそれを忘れるほど落ち着いた風景が広がります。こんな児童館なら、きっと世代を超えた交流が生まれ、地域の子育て支援の拠点となることでしょう。皆さんも、ほかほかの日だまりで心も体も温まる井戸端会議に参加してみませんか。楽しい出会いが待っていますよ。

編集後記

児童福祉法に定められている「児童」とは、「満18歳に満たない者」です。今年は平成18年! もう児童ではありません。立派に成長したのかなあ、平成さん。